



「家族ともども喜んだ」

使徒言行録一六：25～34

牧師 安藤 脩

昨年、主の体なる教会を形成する信仰者として、自覚して前進してもらいたいと願い、「彼らが全き心をもって 自ら進んで主にささげたからである。」(歴代誌上二九章 9 節)の聖句を標語聖句としました。「全き心で、自ら進んで」とは、本心から喜んで行なう行為です。強制されてしかたなく行なう行為は、いつしかストレスになってしまうことを皆さんご存知でしょう。でも喜びがあれば、それは自然な行為として現れるのです。この聖句は、ダビデ王が神殿建築を止められたにもかかわらず、次の世代での建築を助けるため、率先し、喜んで捧げ物をした時のものです。それを見たイスラエルの民も同じように、全き心で、喜んで捧げました。

私たちの教会も会堂建築に当たって同じ体験をしました。先輩たちが会堂建築

の準備を始めてくれていました。もちろん完成するにはほど遠かったですが、それに励まされて、皆が喜んで献金しました。また絵葉書作製、販売のために積極的に奉仕をしました。主も共に働いて、奇跡を見せてくださいました。それで、借財の返済も前倒しで完済できました。でも会堂建築が最終の目的ではありません。場所を移転して会堂を建てたのは、更に多くの人が教会に来、救いに与るようにとの願いからでした。会堂建築の負債から解放された後からが、本当の教会造りです。「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。」(「コリニ二：27」とあるように、私たちはイエス・キリストの体なる教会を造っている部分です。そして「体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかりと組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。」(エフェソ四：16)との聖

2016 年春号
 日本キリスト教団
 横浜岡村教会
 〒235-0021
 横浜市磯子区
 岡村 4-25-39
 TEL045(751)3917
 牧師
 安藤 脩

句が、私たちの上に実現することを願います。

しかし、私たちの教会の実際は、救われる人も毎年いますが、出て行かれた人もおり、また肉体的、霊的に弱っている人もいて減少気味です。ですから、今年はどうしたら良いでしょう。それは喜びある伝道です。自分が救われたときの喜び。それ以上の喜びは、自分の愛する者が救われる喜びです。マザーテレサの祈りにこういうのがあります。「愛は家庭から始まります。先ず家庭の中で不幸な人を救いなさい。両者が愛し合い、母親が家庭の中心にならなさい。平和とうるおいの家庭が築けたら、隣人を愛しなさい。自分が、自分の家庭が、愛に満たされなければ、隣人を愛せません。」

それで二〇一六年の標語聖句を「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」(使徒言行録一六章 31 節)としました。パウロからこのように言われ、主の言葉を聞いた看守の家族は、家族一同で洗礼を受けました。そして「神を信じる者になったことを家族ともども喜んだ。」のです。私たちも家族ともども喜ぶ日を祈りましょう。

証し

思いを超えた大きな恵み

今給黎美代子



二〇一五年8月24日、
26日。天城山荘に於いて、
第62回こころの友伝道全

国大会が開催されました。

私は、安藤脩牧師から、全国大会で信仰実証をと、ご指名をいただきました。引つ込み思案の私は、後悔と不安で一杯になりましたが、神様が、小さく貧しい私にお与え下さいました、自分の思いを超えた大きな恵みに感謝して、実証させて頂いていただきました。

初めて教会に行ったのは、18歳の時、北九州市小倉区の教会でした。ミッションスクール出身の友人の誘いで、讃美歌を歌いたいという思いからでした。しかし、怠け者の私は、求める心もなく、身勝手に、豊かさを追い求めて過ごしてしまいました。

結婚して2人の子どもの平凡な日々でしたが、夫の転勤で数か所転居しました。一九七二年に横浜市磯子区に生まれました。転校した小学生の息子と中学生の娘が、思いもよらない苦しい状況になって、

暗い日々を過ごしていました。そのような時、クリスチャンのS姉に会いました。姉妹は直ぐ、ご自宅の家庭集会に招いて下さいました。そこには、初代横浜岡村教会の梅澤幸太郎牧師の温かい笑顔が待っていました。私は、婦人会に出席し、聖日礼拝を守るようになりました。教会の讃美歌と交わりは楽しく、喜びが自然と湧き上がってくるようでした。子どもたちもクリスチャンホームの友人と教会に行くようになって、明るく変えられていきました。

S姉は、思慮深い方で、教会の行き帰りには、常に伴って下さり、時々訪問して、交わりを持ってくださいました。又、



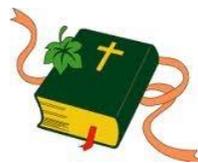
昨年、天に召されたF姉も、祈り続けてくださっていました。私の上に、心の友の熱心な執り成しの祈りが積まれていたのです。そして、聖書の御言葉によるお導きをいただきました。全能なる神様の御愛、独り子イエスさまの十字架の贖罪は、こんな功なき罪人の私の為であった

ことを心から受け取って、その御愛に涙が止まりませんでした。

「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。」

(使徒言行録一六・31)

御言葉を信じて、新しい人生を歩みたいと願って、信仰を告白して、一九七三年の、クリスマス礼拝に於いて梅澤幸太郎牧師から、洗礼を受けて



頂きました。仕事優先の夫は、信仰に無関心でしたが、否定はしませんでした。私は、家族の救いを神様の御手に委ねて、希望と忍耐の祈りを続けて来る事が出来ました。そして、14年後のクリスマス礼拝で息子が、野澤満雄牧師よって、受洗の恵に与りました。その後、結婚した伴侶も、安藤脩牧師から洗礼を受けて頂きました。息子夫婦は、横浜岡村教会の中で、安藤脩牧師のご協力を戴いて、知的障がい者の作業所を立ち上げ、主が備えてくださった道を共に歩んでいます。更に、34年間祈っていた夫は、二〇〇七年の召天者記念礼拝から、初めて教会

に行き、信徒の方々に歓迎して頂きました。そして、安藤脩牧師からは、愛情溢れるお導きを頂いて、その年二〇〇七年のクリスマスに、洗礼を受けて頂きました。受洗後の夫は、聖日礼拝を第一として、夢中で聖書を読みました。私たちは、心を合わせて祈れる幸いを与えてくださった主に、日毎、大きな喜びと感謝をいたしました。その後、夫は病を得て、受洗から2年半後に、天に召されました。御言葉は真実です。神様が、夫にも時を備えて下さったことを、心から感謝いたします。

「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」(ローマ書五:5)

横浜岡村教会では、「こころの友伝道」の働きと共に「岡村アシュラム」を大切にしていきます。二〇一五年度は7月に、第34回のアシュラムを、助言者に横山義孝先生をお迎えして、2日間行われました。アシュラムは、主・イエスさまに、自分の心を明け渡して、主と会衆の前に正直にニードを述べるのです。

昨年度のアシュラムで、私は、信仰の友のニードの成就と、4人の孫たちの救いを願って、毎朝、祈り続けることを決心して、ニードとして出し祈っていました。

二〇一四年12月、中学3年生の孫が、高校生活の前に、受洗したいと、安藤脩牧師に申し出ました。彼は、小さい時に、教会学校で育まれましたので、何時かは、という思いはあったようですが、息子夫婦と私には、余りにも突然でしたので、驚きと喜びに包まれて、主がくださった恵みを感謝いたしました。

彼は、安藤脩牧師から受洗準備の学びを受けて、二〇一五年4月3日、イースター礼拝の中で洗礼を受けて頂きました。教会の兄弟姉妹も、祝福をして下さいました。

今年度のアシュラムには、クリスチャンになったばかりの孫が、私の隣の席に座っていました。私の口からは、喜びと感謝の讃美が溢れ出しました。神様は、私たちの思いを超えた大きな恵みを下さいました。

これからは、残る時を、こころの友伝道の働きために、主に用いていただけたら

すように祈りつつ歩んで行きたいと思っています。

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自からの力によるのではなく、神の賜物です。」(エフェソ書二:8)

(二〇一五年度、第62回こころの友伝道全国大会にて)



アシュラムでお孫さんと共に

安田正昭氏を迎えての

チャペルコンサート

6月26日(日)

自由参加

◎讃美礼拝・AM10時半より

礼拝の中で小作品2曲演奏

◎ピアノコンサート

PM1:30〜3:00



クリスマス
メッセージ

平和を祈るクリスマス



今年も「平和を祈るクリスマス」とテーマをつけてクリスマスを迎えた。それは、この世が今、平和を祈らないではおれない状態だからである。ISの残虐なテロと内戦による紛争。日本でも「武器輸出三原則」が解禁となり、戦争で用いられる武器が販売され、開発されるようになった。集団的自衛権を持つようになっただけでなく、平和憲法である第九条まで消されてしまっただけだ。

マザーテレサの言葉に「静けさの果実は、祈りである。祈りの果実は、信仰である。信仰の果実は、愛である。愛の果実は、奉仕である。奉仕の果実は、平和である。」とある。奉仕、すなわち愛の実践を導き出す原点は、静まって祈ることである。静けさの中で語り掛けて来る主イエス・キリストの「私はあなたを愛している」との言葉を聞く。そこから真の平和が生まれる。

イブ礼拝に参加して

J.C母 斉藤 亜実

12月24日、初めて横浜岡村教会のイブ礼拝に参加させて頂きました。娘はページェントに出られる事をとっても楽しみにしていました。

神聖な雰囲気の中で礼拝が始まりました。聖書の朗読、聖歌隊の讃美歌、子供達のページェント。岡村教会らしい心温まる素敵な礼拝でした。今までケーキやチキンに行列し、慌ただしい従来のクリスマスに少し違和感を感じてしまいました。改めてクリスマスイブはイエス様の誕生をお祝いする日だという本来の意義に気付かされました。

安藤先生のお話の中にマザーテレサの言葉がありました。

「祈りの果実は信仰、信仰の果実は愛、愛の果実は奉仕、奉仕の果実は平和である。愛は家庭から始まる。」

このお言葉が私の心に大きく響きました。イブ礼拝に参加させて頂き、親子で貴重な体験をさせて頂く事が出来た事に感謝致します。ありがとうございました。

12月20日(日)クリスマス礼拝と喜びの祝いが行われました。食事は、皆さんの手作り料理が一杯並び、豊かなテーブルとなりました。ゆっくりと食事を頂き、楽しい歓談の時となりました。



マリア会出し物
ペープサート
よいサマリア人



美味しいお食事！



わかえだ会



カレブの会



ヤングクリスマス
キャンドル・サービス



イブ礼拝での子ども達
によるページェント

クリスマス会に参加して

J.C父 池田 幸弘
12月24日に開催されたクリスマス会に参加させて頂きました。

10月頃から、毎週日曜日の礼拝に参加させて頂くようになったため、初めてのクリスマス会でした。

クリスマス会で発表するページエントの練習を始めたころは、初めてのことであったこともあり、内容を理解することが難しいのではと思いましたが、熱心に練習に取り組み、理解を深めようとする姿を見て微笑ましく思いました。

練習を重ねることで、理解を深め、夕食中の会話にもページエントの内容が出てくることもありました。

本番当日、ちよつと緊張した様子でしたが、子供たち皆が力を合わせ日ごろの練習の成果が出た、素晴らしいページエントだったと感じました。

またページエントの練習に参加していなかった妹たちも、急遽、参加させて頂き感謝しています。妹たちもとても喜んでいました。

普段はおもちやのプレゼントを受け取ることがクリスマスだと考えていた子供たちが、今回参加したクリスマス会やページエントを通じて、本当の意味でのクリスマスを学ぶことが出来たと感じています。



写真で見る
ページエント
2015年



いと高き所には栄光、神にあれ。地には平和、御心にかなう人にあれ。





関口猛兄の召天の回想

牧師 安藤 脩

関口猛兄の召天の時は突然に来了。12月6日の礼

拝直前に、奥様の勢津子姉より電話が入った。「朝食を摂って、礼拝に行くため服を着替えている時、倒れ、意識を失って、病院に搬送された」との知らせでした。この日は関口兄が司会の予定でした。礼拝を終え、役員会が始まる前に、私は病院に急行した。控え室にいるご家族に合い、ICUに入った。お医者さんから橋出血(脳幹部からの出血)で、手術は出来ないと言われた。そしてその日、午後11時59分に召天された。私たちにとって彼の召しは衝撃でした。ご家族にとっては尚更でしょう。ご遺族に平安と慰めを祈ると共に、御旨を主に問うてまいります。と思います。

関口猛兄を偲んで

カレブの会 井上義勝

関口兄が一九九九年横浜岡村教会に復帰された翌年、私たち夫婦は岡村教会で洗礼を受けました。毎週の礼拝に通う

ようになり、関口兄と話すようになったのは、月一度の定例会からです。新参者の私に優しく接してくれました。特に親しく話すようになったのは、洗礼を受けた翌年のクリスマス祝会の出し物の中でクラシックギターを演奏した私の姿を写真に撮り、B5サイズにプリントしたものを頂いてからです。今でもその思いがけない事に驚き、嬉しかったことを忘れません。それからは、いろんなことを話すようになり、教会で会うのが楽しみになりました。

二〇〇四年になると新会堂建築計画が進められ、関口兄は教会債の担当としてご奉仕されると共に、二〇〇六年2月の新会堂完成の翌年まで、会社勤めをしながら教会役員としてのご奉仕もされました。又、関口兄はカレブの会長を続けられ、例会の活動を積極的に行われました。聖書の輪読や学びの発表、長欠者への礼拝の連絡や行事案内、会員を中心とした親睦会の開催。2年前には菊地牧師の赴任先だった福島県郡山の本宮教会へ新会堂の見学に行き、交わりの時を持ちました。こうした多くの計画を果たされ、伝道に貢献なされたこと。又、教会役員の

柱となって、ご奉仕されましたことを感謝いたします。

関口猛兄を偲んで

田崎 郁代

「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。」

(哀歌三・22)

関口兄が召天された日の四日前、祈禱会の帰りに車で送っていただきました。その時、昨年4月に百四歳で先に召されたお母様の遺品の中から、前述の聖書の箇所を読んでお祈りするようにと書かれたものがあつたと教えていただきました。主人が若い頃、悩みを抱え、死を考えていた時期に、教会の前を通りかかりました。その時、関口兄が教会の中から呼んで下さったことから教会に行くようになり、救いを得ることができました。また、教会用のカバンを買って下さったり、お花見ドライブに連れていって下さったり、娘の洗礼式の写真を撮って下さったことを思い出します。感謝。





牧野文子姉を偲ぶ

牧師 安藤 脩

牧野文子姉は横浜岡村教会の誕生と同じ一九四九年に、故郷の静岡で洗礼を受け、牧野義郎兄との結婚で、翌年、横浜へ来られた。初期の根岸橋教会に加わり、二人のお子様を育てつつ、婦人会の一員として活躍された。姉妹の祈りに導かれ、夫の義郎兄も33年経て洗礼を受けられた。教会役員として活躍するご主人を支え、二〇〇九年五月に義郎兄を天に送るまで、26年間、共に教会生活を送った。その後、ご子息一家と生活を共にしていたが、世話を掛けたくないということ、二〇一二年十一月にセントケアホーム港南に入居された。残念ながら、入居してからは礼拝に来ることができなかつた。それで私が隔月で聖餐式をしにいった。聖書を読み、説教要約を読んであげると、いつも大変喜んでくれ、祈って別れた。昨年末頃より、体力が落ちてきたな！と感じていたが、1月26日午前4時30分、ご子息から電話を受け駆けつけた時は、もう、信仰に導いてくれたお母様と御主人の待つ天へ帰っておられた。満92歳

牧野文子姉の思い出

池田 久子

牧野姉は今の横浜岡村教会の前身である根岸橋教会の頃から交わりのある先輩でした。思い出として残っている一つは、ずいぶん前の事、私が転んで膝を打撲し教会に行けずに家に居た時の事、牧野姉がお見舞いにおいで下さり嬉しかった事を思い出します。ちょうど私の姉が心配してきていました。姉もとても嬉しく話を致しました。

牧野姉は日本舞踊を習っておられたので、所作が美しく、とても落ち着いた方でした。私が無造作に腰かけていた時、「足が開いていますよ」と教えて下さった事を思い出します。又、看護婦さんをしてもらったので、いろいろ参考になる事を教えて頂きました。今は寂しく懐かしい思いで一杯です。私も牧野さんのように信仰の道をしっかり歩み通したく思います。又、天国でお会いしましょう。

3教会婦人交わり会

安藤 善枝

2月5日(金)。朝から晴れ渡ったよい天候が与えられ、横浜菊名教会で3教会の婦人交わり会が行われました。各テーブルは美しく整えられ、菊名教会の

方々の心のこもった豊かなおもてなしを受けました。

礼拝では愛澤先生からメッセージをして頂きました。「船の右側に網を打ってみなさい」と言われたイエスに、落胆していたペトロ達がもう一度信仰をもってイエスの言われたことに聴き従ったことが印象に残りました。その時奇跡が起こったのです。現実には落胆してしまわないで、もう一度主のなさる事に信頼し、新しく従っていきたいと思いました。

お昼は和やかな雰囲気の中、テーブルでの会話も弾み、皆さんで楽しくお食事を頂くことが出来ました。午後は、各教会婦人会の活動内容の紹介を合影留念しました。それぞれの教会は、色々と工夫しながら活動をされていらっしゃるなあと思いました。

その後、木村真紀さんの東北被災地での、讚美をもつての活動の様子をお話しして頂きました。もちろん歌も歌っていただきました！私達は小さな働きしか出来ませんが、これからも祈りの炎を燃やし続けて行きたいと思えました。感謝！48名の参加



3～5月 行事予定

3月

- 3日 三教会牧師家族会
- 4日 世界祈祷日 (カトリック山手)
- 9日 三教会統一祈祷課題祈祷会
- 13日 JCスタッフ・役員任職式
防災訓練
- 20日 棕櫚の主日 (洗足礼拝)
- 20日 横浜地区集会・総会 (横浜磯子)
- 21～24日 受難週祈祷会
- 25日 受難日燭火礼拝
- 27日 イースター礼拝、洗礼式
祝会・餅つき会

4月

- 2日 高嶺会 (清水ヶ丘教会花見)
- 3日 拡大役員会
- 24日 定期教会総会
- 29日 石川新兄・小牧愛姉結婚式

5月

- 1日 責任役員任職式
- 3日 わかえだ会野外交わり会
- 5日 主の昇天日
- 5日 関東心の友伝道講習会(吉川教会)
- 8日 母の日親子礼拝
- 10日 三教会交流委員会 (当教会)
- 15日 ペンテコステ礼拝
- 29日 役員研修会
- (毎月第1主日 聖餐式、役員会)
- (毎月第4主日 各会の定例会)



JCの窓
(ジュニアチャーチ)

楽しかった!

安藤 善枝

1月31日(日)3教会

菊名教会で行われました。

当日インフルエンザで数名の子ども達が行けなくなり、本当に残念でしたが、スタッフ6名と子ども3名で参加しました。他の教会も子どもよりスタッフの方が多いような印象でした。年に一度の交わり会です。他の教会の方々と一緒に賛美したり、工作をしたり、クレープを作ったり、

り、(盛りだくさん)楽しい時間はあつというまに過ぎてしまいました。まだクレープ食べたい! って誰かが言っていました。みんなの名前を覚えるゲームも面白かったです。20人も覚えた人がいて、びっくりしました。いつも来ている子ども達がみんな他の教会に行く事はなかなか難しい。でも来年は岡村教会が当番! 今からどうするか、みんな考えていきましよう!!



3教会*横浜菊名教会・清水ヶ丘教会・横浜岡村教会



集案案内

○3月27日(日) イースター礼拝

大人と子どもの合同礼拝です。

午後、お餅つき!

ご家族でおいで下さい!!



○5月8日(日) 母の日親子礼拝

○5月15日(日) ペンテコステ礼拝

○6月4日(土) 春のランチョン

ゲスト・町田俊之師

B&Aミニストリーズ代表



最後の晚餐

編集後記

木々の芽も膨らみ始め、レントに入りました。春号は、ご家族三代にわたっての救いの喜び、又、教会員とJCの御家族と過ごしたクリスマスの諸情事が載せられ、感謝でした。当号の記事にも有りました。お二人の兄弟の召天は、余りにも突然で、私どもはショックでした。「わたしの思いは高く越えていく。」と言われる主を信じ受け止めたいと思っています。

(S・H)

